

令和 7 年度
学習シラバス
〔第 2 学年〕



八王子市立鑓水中学校

国 語

使用教材	【教科書】 ・伝え合う言葉 中学国語2(教育出版) ・中学書写(教育出版) 【副教材】 ・よくわかる国語の学習2(明治図書) ・新国語の便覧(秀学社) ・例文漢字2(浜島書店) ・読み方レスキューグレードⅡ(正進社) ・書初め用紙(手本付き)(文書館)	持ち物	【通常授業】 ・教科書・ノート ・例文漢字・読み方レスキューⅡ ・便覧・ワーク・タブレット 【書写の授業】 ・大筆・小筆・文鎮・硯・下敷・新聞 ・墨汁・ゴミ袋・半紙・2Bの鉛筆
学習の目標	(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。 (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を身に付け、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付ける。		
学習の進め方	＜学習の進め方＞ (1) 国語では、文学的文章(小説)、説明的文章(論説)、古典(古文・漢文)、短詩型文学(俳句、短歌、和歌、詩)、文法・漢字等の分野について学習する。 (2) 授業は、主に各クラスの教室で行う。場合によっては、図書室を利用する。 (3) 提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。 (4) 班活動は、課題に応じて、3～4人班、または5～6人班で意見交換活動、朗読発表、劇発表、意見発表等を行う。班員で建設的な意見を出し、話す力・聞く力を身に付けていく。 (5) 授業で学習したことや配られたプリントを見直す、ワークに取り組む等して復習をするとよい。 (6) 朝読書の時間や昼休みに読書をすることで想像力を広げる、新聞を読むことで見聞を広める等をするといよい。 (7) 学習した内容を、自分の経験や身の周りの生活と結びつけて考えたり、学習を通して興味や疑問をもった内容を調べたりして、理解を深めるとよい。 ＜注意すること＞ (1) 授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2) 持ち物は忘れないようにする。 (3) 板書されたこと、気付いたこと等はノート等にまとめる。 (4) 先生の話や友達の発表をしっかりと聞くようにする。 (5) プリント、ワーク、クロムブックの課題等の提出は期限を守る。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	1 学びを広げる	・詩 ・話すこと聞くこと ・小説 ・文法 ・書くこと ・漢字 ・説明文 ・敬語 ・言葉と社会 ・話し言葉と書き言葉 ・情報メディアと表現 ・書写
	5	2 論理を捉える	
	6	3 自己をひらく	
	7		
二学期	8	4 情報を捉える	・総合(SDGs) ・説明文 ・書くこと ・文法 ・古文 ・漢文 ・短歌 ・小説 ・情報メディアと表現 ・漢字 ・書写
	9		
	10		
	11		
	12		
三学期	1	7 関係を考える	・評論 ・書くこと ・話すこと聞くこと ・言葉と社会 ・文法 ・詩 ・小説 ・類義語 対義語 多義語 同音語 ・漢字 ・書写
	2	8 考えと向き合う	
	3	9 表現を味わう	

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	提出物の記述内容 小テスト 単元テスト 定期考査
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を身に付け、人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	提出物の記述内容 発表等の内容等 小テスト 単元テスト 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付けている。	物語、説明文等の感想記述内容 学習の振り返りの記述内容 発表等の内容等

社 会

使用教材	教科書・社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土(帝国書院) ・社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き(帝国書院) ・中学校社会科地図(帝国書院) 副教材 ・よくわかる社会の学習 地理2(明治図書) ・よくわかる社会の学習 歴史2(明治図書) ・学び考える 歴史(浜島書店) ・アクティブ 地理総合(浜島書店)	持ち物	筆記用具 授業プリント 教科書(地理・歴史) 資料集(地理・歴史) ワーク 地図帳 色鉛筆
学習の目標	(1) 日本の地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 日本の諸地域に関する様々なグラフを読み取り、位置や分布、場所、人間と自然環境との関係に着目して、考察したり、判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 中世から近代の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (4) 歴史に関わる事象の意味や意義に着目して考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1)社会では、地理、歴史、2つの分野について学習する。社会の授業は週に3時間あり、歴史は週2時間、地理は週1時間で進める。歴史の学習範囲が終わり次第、地理の授業になる。 (2)授業は、各クラスの教室で行う。 (3)提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。 (4)グラフの読み取りや様々な作業に対して多面的多角的に観たり考えたりする意識をもつ。 (5)他の人の意見と自分の意見や考え方の違いに気付き、様々な見方や考え方があることを知る。 (6)授業で学習したことや配られたプリントを見直し、復習をする。 (7)日々のニュースに注目し、学習内容と結び付ける意識をもつ。 <注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2)持ち物を忘れないようにする。 (3)板書されたことや友達の見解は配布されたプリントに書き込む。 (4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。 (5)プリントは配られたらファイリングし、なくさないように管理する。		

学習計画

	月	学習単元(歴史分野)	学習内容(歴史分野)	学習単元(地理分野)	学習内容(歴史分野)
一学期	4	武家政権の展開と世界の動き	武士による全国支配の完成	日本のさまざまな地域	日本の地域的特色
	5		天下泰平の世の中	日本の諸地域	九州地方
	6		社会の変化の幕府の対策		中国四国地方
	7	近代国家の歩みと国際社会	欧米諸国における「近代化」		
二学期	8		開国と幕府の終わり		近畿地方
	9		明治政府による「近代化」の始まり		中部地方
	10		近代国家への歩み		関東地方
	11				東北地方
	12				帝国主義と日本
三学期	1		アジアの強国の光と影		北海道地方
	2				各地方のまとめ
	3				

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	諸地域の事象及び特色や歴史の流れを理解するとともに、調査や資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト ・単元ワークシート 等
思考・判断・表現	多面的多角的考察によって、課題解決に向けて公正に選択・判断する力や、思考・判断したことを説明したり、議論したりすることができる。	・定期考査 ・小テスト ・授業内文章問題 ・ディベート発表(原稿内容含む) 等
主体的に学習に取り組む態度	学習内容に関心を持ち、より良い社会の実現を視野にそこで見られる諸課題を、学習内容を生かして主体的に追求・解決しようと粘り強く考えようとしている。	・授業観察 ・単元ワークシート ・テスト振り返り ・ディベート 発表内容 等

数 学

使用教材	教科書 未来へひろがる 数学2(啓林館) 副教材 よくわかる数学の学習2	持ち物	筆記用具 教科書 副教材(問題集) ファイル 定規 (コンパス)
学習の目標	(1)数量や図形等についての基礎的な概念や原理・法則等を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形等の性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1)1クラス2展開(コースは「応用発展」、「基礎充実」)の習熟度別少人数授業を行う。 (2)授業は、各クラスの教室と第2学習室で行う。コース発表の用紙に記載するので、確認して、自分の教室に行く。 (3)授業の進め方は自由進度学習とする。 (4)数学では答えにたどり着くまでの過程が大切である。途中式は消さないようにする。また、自分の考えを大切にし、どのように考えたのか他の人にも説明できるようにする。 (5)1つの問題の解き方にいろいろな考え方があるので友だちの意見にも耳を傾ける。 (6)数学は似た問題を数多く解くことで、理解が深まる。問題集等を使って復習をする。 <注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2)持ち物を忘れないようにする。 (3)配られたプリントは必ずファイルに閉じる。 (4)单元ごとに振り返りシート等の課題を出す。作成するときに困らないよう、大事だと思ったことはノートやワークシートに書き残す。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	1章 式の計算	1節 式の計算
	5		2節 文字式の利用
	6	2章 連立方程式	1節 連立方程式 2節 連立方程式の利用
	7	3章 一次関数	1節 一次関数とグラフ
二学期	8	3章 一次関数	2節 一次関数と方程式
	9		3節 一次関数の利用
	10	4章 図形の調べ方	1節 平行と合同 2節 図形の性質の利用
	11		3節 証明
	12	5章 図形の性質と証明	1節 三角形 2節 四角形 3節 図形の性質と証明の利用
三学期	1	6章 場合の数と確率	1節 場合の数と確率 2節 確率の利用
	2	7章 箱ひげ図とデータの活用	1節 箱ひげ図
	3	2年生のまとめ	2年生の学習内容と総復習

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト ・単元テスト ・課題の記述内容
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりすることができる。	・定期考査 ・小テスト ・単元テスト ・課題の記述内容
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	・課題の記述内容(目標設定や振り返り等) ・学習の振り返り等の記述内容

理 科

使用教材	【教科書】 未来へひろがるサイエンス2(啓林館) 【副教材】 ・理科の完全学習2年 ・理科 積み上げ2年	持ち物	・教科書 ・理科の完全学習 ・理科便覧 ・筆記用具 ・ノート ・ファイル ・chromebook
学習の目標	(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験等を行い、科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1)理科では、生命、地球、物質、エネルギーの4つの分野について学習する。 (2)授業は、各クラスの教室もしくは理科室で行う。連絡は先生から理科係を通して行う。 (3)提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。 (4)話し合い活動をする場面では他の人の意見を聞き、課題を多面的に観たり考えたりする意識をもつ。 (5)理科室では、3～4人班での観察や実験を行う。安全かつ正確に行えるように、班員で協力して行う。 (6)授業で学習したことや配られたプリントを見直し、復習する。 (7)学習内容と日常生活の中で起こる様々な自然現象を結び付ける意識をもつ。 <注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2)持ち物を忘れないようにする。 (3)板書されたこと、気づいたこと等はノート・プリントなどにまとめる。 (4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。 (5)実験レポート、ワーク、課題等の提出は期限を守る。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	【生命】○生物の体のつくりとはたらき ・生物の体をつくるもの	・生物の体の成り立ち ・細胞のつくり ・細胞のはたらき
	5	・植物の体のつくりとはたらき	・植物の呼吸 ・水や栄養分を運ぶ ・栄養分をとり入れる
	6	【地球】○地球の大気と天気の変化 ・地球をとり巻く大気の様子	・大気の中ではたらく力 ・大気の様子を観測する
	7	【エネルギー】○電流とその利用 ・電流の性質	・霧のでき方 ・雲のでき方 ・電圧と電流の関係 ・電流が流れる道すじ ・回路の電流と電圧
二学期	8	【生命】○生物の体のつくりとはたらき	・動物の呼吸 ・刺激を伝えるしくみ ・運動のしくみ
	9	・動物の体のつくりとはたらき ・動物の行動のしくみ	・物質を表す記号 ・化学変化を表す式 ・物質どうしが結びつく変化
	10	【物質】○化学変化と原子・分子 ・物質の成り立ち・物質の表し方	・物質を加熱したときの変化 ・水溶液に電流を流すときの変化 ・物質のもとになる粒子 ・原子が結びついてできる粒子
	11	【地球】○地球の大気と天気の変化 ・大気中の水の変化 ・天気の変化と大気の動き	・大気の動きによる天気の変化 ・地球規模での大気の動き
三学期	12	【エネルギー】○電流とその利用 ・電流の性質・電流の正体	・空気に含まれる水蒸気の量 ・風がふくしくみ ・電流のはたらきを表す量 ・電流、電圧、電気抵抗の求め方
	1	【物質】○化学変化と原子・分子 ・さまざまな化学変化	・物質が酸素と結びつく変化 ・酸化物から酸素をとり除く変化 ・化学変化と熱の出入り
	2	・化学変化と物質の質量 【地球】○地球の大気と天気の変化	・化学変化の前後での物質の質量 ・反応する物質どうしの質量の割合
	3	・大気の動きと日本の四季 【エネルギー】○電流とその利用 ・電流と磁界	・天気の変化がもたらす恵みと災害 ・日本の四季の天気 ・陸と海の間の大気の動き ・静電気・電流の正体 ・静電気と電流の関係 ・放射線の発見とその利用 ・磁界 ・モーターのしくみ ・発電機のしくみ

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則等を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・実験レポート ・授業観察 ・ワークシート・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査 ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験等を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する等科学的に探究している。	・実験レポート ・ワークシート・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしている。	・授業観察 ・ノート等の記述 ・ワークシート・プリントの記述 ・学習の振り返り ・実験レポート

音 楽

使用教材	教科書 ①中学生の音楽2・3年上(教育芸術社) ②中学生の器楽(教育芸術社) 副教材 ①コーラスフェスティバル(合唱曲集)(正進社) ②表現と鑑賞の資料(正進社) ③教科担任作成のプリント等	持ち物 ①音楽の教科書 ②器楽の教科書 ③コーラスフェスティバル(合唱曲集) ④資料集 ⑤ソプラノリコーダー ⑥ファイル ☆①～⑥を音楽袋に入れて持参
学習の目標	(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。	
学習の進め方	【学習の進め方】 ①音楽の授業には、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の4つの柱がある。 「器楽」はソプラノリコーダーと和楽器(和太鼓、箏)、「創作」は基本となる音符や休符を理解し、リズム学習を通して3年次に簡単な作曲をすることを目標としている。 ②授業は特別なことがない限り音楽室で行う。 ③その日の「学習の目当て」を理解し、一生懸命に取り組む。 ④ワークシートを使った授業では、書き込みの工夫等、どのように授業を受けていたかを評価する部分もあるので、意識して取り組む。 ⑤読み取り学習は、作者の思いや詩の理解、音楽を形づくっている要素を知覚し、自分の意見を文章で表現することを求めている。学習の前に楽曲の理解に努めることも大切なことである。 ⑥合唱におけるパート練習は、曲の完成だけでなく、パートやクラスの協力性や一体感に繋がるのでしっかり取り組む。 ⑦一生懸命取り組んで、1時間の授業の中で何ができたのか、課題は何なのかを点検表をとおして振り返る。 ⑧「自分を表現すること」はとても大切で、評価の重点項目になっている。また、音楽の授業以外にも役立つことなので、積極的に取り組む。 【注意すること】 ①授業に必要な持ち物は、特別なことがない限り変わらないので、忘れないように準備する。 また、人から借りてきた物には書き込むことができないので、自分の勉強にならない。 忘れた場合は、ごまかさず申し出て先生から借りる。 ②先生の話や指示をしっかり聞き、正しく理解して行動に移す。 ③提出物は期限を守って提出する。 提出の直前に人のものや解答を写しても何の意味もないので、時間を見つけて自分で取り組み、最後に答え合わせをする。 答え合わせした時に間違っていたものは赤で直し、空欄は赤で書き込む。 自分ができなかったところをはっきりさせて、後の学習に役立てる。 ④インターネットを利用した調べ学習等は、著作権に関してはもちろんだが、そのまま写して自分の感想にしたりすることがないように十分に注意する。 ★理解に役立つようオレンジ色のペンで書き込む場合は、上記を工夫する方法を考える。	

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	・曲想や歌詞を生かした歌唱表現の工夫 ・フーガの構成とパイプオルガンの響き ・創作の工夫 ・音楽の基礎を学ぶ	・「夢の世界を」「夏の日の贈りもの」 ・「フーガ ト短調」(バッハ) (鑑賞) ・リズムゲーム(創作) ・楽典(記号の復習)
	5		
	6		
	7		
二学期	8	・曲想や歌詞を生かした合唱表現の工夫 ・オーケストラの響きを感じ取る ・音楽と情景の関わり(日本の歌曲:心の歌) ・音楽の基礎を学ぶ ・器楽を楽しむ	・合唱コンクールに向けて2部合唱、3部合唱 ・交響曲第五番(ベートーヴェン) (鑑賞) ・オーケストラの楽器について ・「夏の思い出」 ・楽典(反復記号) ・ソプラノリコーダー
	9		
	10		
	11		
三学期	1	・受け継ごう日本の伝統芸能 ・オペラに親しみ味わう ・情景と音楽との関わり(日本の歌曲:心の歌) ・曲想や歌詞を生かした合唱表現の工夫 ・音楽の応用	・郷土の音楽、伝統芸能 歌舞伎、文楽 ・歌劇「アイーダ」 ・「荒城の月」 ・卒業式に向けて3部合唱 君が代 ・楽典(総まとめ、次年度に向けて)
	2		
	3		

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景等と関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を歌唱、器楽、創作で身に付けている。	・授業観察、内容の習得 ・実技(途中経過含む) ・実技テスト ・定期考査
思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素等を知覚している。 ・特質や雰囲気を感じながら考え、どう表すかについて思いや意図をもったり、音楽の良さを味わって聴いたりしている。	・授業観察、発言・記述の内容 ・ワークシート、読み取り学習の内容、工夫 ・実技(途中経過含む) ・実技テスト ・点検表(振り返り)の記述 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・他者に助言したり他者からの助言を参考にしたりしながら身に付けようとして取り組んでいる。 ・課題に対して適切に粘り強く取り組み提出、終了している。 ・顔の体を表情をよくし、体を使った表現にしよう、グループで話し合っ工夫しているか。 ・自分の演奏の中で、「できたこと」「次回の課題」がしっかり振り返られている。他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりしている。	・授業観察 ・提出物の内容 ・ワークシートの内容、工夫 ・点検表(振り返り)の記述内容

美術

使用教材	教科書 美術2・3上下（日本文教出版）2冊 副教材 美術資料／東京の美術（秀学社）	持ち物	・美術バッグ（教科書2冊、資料集、スケッチブック、アクリルガッシュセット） ・筆記用具
学習の目標	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 (2) 自然の造形や美術作品等の造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働き等について考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1) 美術では、「表現」と「鑑賞」の学習がある。「表現」は自分で感じたことや考えたことを色や形にして、作品として表すことである。 「鑑賞」は、作品をじっくりと見て、良さや美しさを感じ、自分の言葉で表すことである。 (2) 授業は「美術室」で行う。持ち物の連絡等は授業でも伝えるが、基本的には美術係を通して行う。 (3) 作品制作（表現）では課題の条件を理解し、自分で感じたことや考えたことをもとに構想を練り、制作する。 (4) 制作の前や途中に、参考作品や友達のを鑑賞することがある。また、制作のまとめとして最後にお互いの作品を鑑賞する時間を設ける。 (5) 授業内で仕上げられるように見通しをもつ。 (6) 美しいものや機能的なものの良さに気付き感動する心を大切にする。生活の全てが「美術」につながっている。 <注意すること> (1) 授業開始の時刻までに準備を終え、着席すること。 (2) 1時間1時間、集中して取り組むこと。積み重ねが大事である。 (3) 作品の評価は、完成作品と途中作品で行う。未完成でも期日で評価する。計画時間内で完成させること。 (4) 友達を大切にするように、作品も大切に扱うこと。 (5) 机や道具はきれいに片付けること。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	オリエンテーション	・デッサンの基本的な技術を習得する ・さまざまな描き方を創意工夫して作品制作する ・デッサンの作品鑑賞
	5	静物デッサン	
	6	人物デッサン(似顔絵) 定期考査	
	7	人物デッサン(似顔絵) 作品鑑賞	
二学期	8	木彫時計	・木彫の技法を習得する ・さまざまな彫り方を創意工夫して作品制作する ・木彫時計の作品鑑賞
	9		
	10		
	11		
	12		
三学期	1	絵巻物	・鳥獣人物戯画の作品鑑賞 ・令和のオリジナル鳥獣人物戯画を描く ・令和のオリジナル鳥獣人物戯画の作品鑑賞
	2	絵巻物 定期考査	
	3	作品鑑賞	

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	・形や色彩が感情に表す効果や、具体物や行為を表す形を基に、伝達するイメージを伝えようとしている。 ・絵具等の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、制作の順序等を総合的に考えながら見通しをもって創造的に表している。	・授業観察 ・作品（途中作品含む） ・アイデアスケッチ等の下絵 ・定期考査
思考・判断・表現	・伝えたい内容やイメージを基に伝える相手や場面等から主題を生み出し、形や色彩等による伝達の効果と美しさ等との調和を考え表現する構想を練っている。 ・伝えたい内容やイメージとの調和のとれた美しさ等を感じ取り、作者の意図と創造的な工夫を考え、見方や感じ方を深めている。	・授業観察 ・作品（途中作品含む） ・アイデアスケッチ等の下絵 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝える目的や機能を考えて意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもって取り組もうとしている。 ・作者の意図と創造的な工夫等について考える等の見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・授業観察 ・授業中に制作した作品や提出物について記述した制作カード（鑑賞の場合は、振り返りカード）

保健体育

使用教材	教科書 新しい保健体育(東京書籍) 資料集 図解中学体育(あかつき)	持ち物	体育着 体育館履き 各種目に応じた持ち物
学習の目標	①各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解する。 ②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。		
学習の進め方	ランニング 体操 挨拶 授業の流れやめあてを確認 実技指導 片付け まとめ 解散		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動
	5	陸上競技	短距離走・リレー
	6	器械運動	マット運動
	7	球技	ネット型
二学期		保健	傷害の防止
		体育理論	運動やスポーツの効果
		水泳	4泳法
	8	球技	ベースボール型
	9		
	10	陸上競技	中・長距離走
三学期	11	武道	剣道
	12	保健	傷害の防止・健康な生活と疾病の予防
		体育理論	運動やスポーツの学び方
	1	ダンス	現代的なリズムのダンス
三学期	2	球技	ゴール型
	3	保健	健康な生活と疾病の予防
		体育理論	運動やスポーツの安全な行いかた

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	運動の意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解し、知識及び技能を関連付けながら運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	学習カード 授業プリント 実技試験 定期考査 授業内観察
思考・判断・表現	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組み方や工夫をしているとともに、それらを他者に伝えている。	学習カード レポート 授業プリント 定期考査 話し合い 発表 授業観察
主体的に学習に取り組む態度	健康・安全に留意しながら、最善を尽くして学習に取り組もうとしている。公正、協力、責任、一人一人の違いを大切にしようとする等の意欲が見られる。	学習カード 活動の様子 行動の観察 安全に留意している

技術・家庭

使用教材	教科書 新しい技術・家庭 副教材 技術・家庭総合ノート「家庭科分野」	持ち物	筆記用具 教科書 技術・家庭総合ノート「家庭科分野」
学習の目標	<技術分野> (1)生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知る。 (2)エネルギー変換を利用した製品を製作し、電気回路の配線、点検ができる。 (3)生活や産業の中で情報手段の果たしている役割について考えることができる。 <家庭分野> (1)生活の営みに係わる見方や考え方ができる。 (2)衣服の働きや素材の特徴を知り、生活を豊かにする作品を製作することができる。 (3)衣食住等に関する実践的な活動を通して生活の中から課題を設定し解決することができる。		
学習の進め方	<学習の進め方> <技術分野> (1)2年生ではエネルギー変換、生物育成、情報の3つの分野について学習する。 (2)授業は、主として技術室(金工)で行う。 (3)技術室では、3～4人班での作業を行う。安全かつ正確に行えるように班員で協力する。 <家庭分野> (1)2年生は、衣生活・食生活の分野の実践的な内容を学習し、実習を重ねて実践力を身に付け、生活の中での自立につなげる。 (2)授業は、教室、被服室、調理室で行う。 (3)実習は、3～4人班で行う。安全に留意し実習を進める。教え合い、学び合うことを取り入れ、学習を展開する。 (4)配られたプリントは、ファイルに保管しワークとともに、定期考査前には見直し、復習をする。 <共通 注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2)持ち物を忘れないようにする。 (3)板書されたこと、気付いたこと等はノートやファイルにまとめる。 (4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。 (5)プリント等の提出は期限を守る。		

学習計画

	月	学習单元(技術分野)	学習内容(技術分野)	学習单元(家庭分野)	学習内容(家庭分野)
一学期	4	生物育成	・仕組みや働きを考えながら製作する。	○食品の選択と購入 ○調理と食文化 肉／魚／野菜の実習 ○調理実習	・旬の食材の活用 ・加工食品の特徴 新鮮・安全な食品選び ・桜餅 ・餃子・ムニエル ・酢の物等
	5	・生物育成に適する条件と育成環境を管理する方法を知る。	・栽培の基本的な技術を知り、栽培を行う。		
	6		・収穫した野菜は家庭で調理して食べる		
	7	・生物育成の記録のまとめ			
二学期	8	生物育成 エネルギー変換	エネルギー変換の特徴を知る。 ・エネルギーの有効利用について知る。 ・電気回路の基本を理解する。	○よりよい食生活を目指して ○生活を豊かにするために 「スウェーデン刺繍をあしらった作品作り」	・ハンバーグ・生姜焼き・卵焼き・野菜を使った料理等献立を検討 ・刺繍の仕方 ・糸の扱い方 ・ミシンを使つての製作
	9	・生物育成に適する条件と育成環境を管理する方法を知る。			
	10	・電気エネルギーの変換と利用			
	11	・生物育成の記録のまとめ			
三学期	1	エネルギー変換 ・電気機器の製作	・電気機器の製作を通して、電気回路やエネルギー変換に関する理解を深める。	○住生活と自立 住まいの役割と住まい方 ○災害に備えたすまし健康で快適な室内環境	・安全な住まい方を考える ・平面図を知り、生活に役立て工夫する
	2				
	3	情報 ・計測制御のプログラミング	・信号機や電気機器を制御するプログラムの働きを知る。		

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	生活や技術に関する知識や工具の使用法について理解し、安全に正しく使用する力を身に付けている。	・課題、作品 ・プリント、ノート ・授業観察 ・定期考査・小テスト
思考・判断・表現	学び得た知識や技能を活用して主体的に課題を設定し、課題を解決する力が身につけている。学習過程の場面を捉え、自分の考え等を道筋を立てて、分かりやすく説明できる。	・課題・作品 ・プリント、ノート ・作業記録 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	生活や技術に関する知識・技能を身に付け、生活を充実向上するために主体的に実践しようとしている。	・振り返りシートの記述 ・プリント、ノート(目標設定と学習の振り返り等) ・授業観察

英 語

使用教材	教科書 NEW CROWN2 (三省堂) 副教材 Joyfulwork2 みんなのサマー 学習の達成 ファイル	持ち物	筆記用具 教科書 ノート Joyfulwork2 ファイル battles with yourself
学習の目標	(1) 外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働き等を理解するとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面, 状況等に応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で簡単な情報や考え等を理解したり, これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
学習の進め方	《教科書》 教科書は、8つのLessonに分かれており、1つのLessonが4つのPartに分かれている。それぞれのLessonごとに新出の文法事項、単語を学ぶ。また、本文の理解を通して、異文化理解を深めるとともに、自国との違い等にも触れていく。 《ノート》 授業内で学習した項目を理解するためにノートにとる。ただ、黒板を写すというノートの取り方から、自分なりにポイントを絞ってノートをとることを心がける。また各Lessonが終わった時点で単元テストを実施する。 《パフォーマンス》 各レッスンで学ぶべき会話表現使い、スピーチやインタビュー、ロールプレイングを行う。 《ワークシート》 各partの文法事項をまとめたプリントが用意される。授業では共通の文法事項、重要表現、練習問題に触れることで、全員が共通の内容を理解することができる。また、ワークシートの課題作成(作文やスキットづくり)で学び得た知識をパフォーマンステストに活用する。 《Joyfulwork2》 授業で習った内容の理解を深めるために使う。特に定期考査に向けての自学用で、個人で進めていく。 《battles with yourself》 前レッスンで既習の単語25問の単語テストを、授業毎冒頭に行う。前単元で既習の単語25問の単語テストを、授業毎冒頭に行う。同じものを4回行い、4回目の点数を知識技能の観点で評価する。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	Lesson1	助動詞 (will) 復習 学校行事を一年生に紹介しよう
	5	Lesson2	接続詞(when, if, that) おすすめの本を紹介しよう
	6	Lesson3	不定詞(三用法) 将来の夢について発表しよう
	7		
二学期	8	Lesson4	There is ~ 構文
	9		動名詞 環境問題について
	10	Lesson5	show + A + B 等 オーストラリア文化
	11	Lesson6	比較級、最大級、原型比較
三学期	12		
	1	Lesson7	現在完了形(経験) 中国文化
	2	Lesson8	現在完了形(継続、完了) 落語文化
	3		プレゼンテーション

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等を理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・定期考査 ・単語テスト ・小テスト、単元テスト ・即興英会話 ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	獲得した知識、技能を用いて、自分なりに表現したり、伝え合ったり、概要や要点を捉えたりしている。	・定期考査 ・単元テスト ・パフォーマンステスト (スピーチ、インタビュー、ロールプレイング) ・即興英会話
主体的に学習に取り組む態度	自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する等自らの学習を調整しながら、主体的に学習しようとしている。	・定期考査解きなおしシート(自分がなぜ間違えたのか、なぜ正しい答えはそうなるのか等を分析させる。また、解きなおしする問題の選択は自由とし、粘り強さを評価する。) ・Review sheet(目標設定と学習の振り返り) ・パフォーマンステスト ・授業内ワークシート